

イデックスオイルレポート ~For a week~

2022/10/7作成 (株) 新出光

【概況】＜OPECプラス日量200万バレル減産＞

●30日、石油輸出国機構(OPEC)加盟・非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」が10月5日に関ヶ会合で、11月に日量50万～100万バレルの追加減産を行う方向で調整しているとの報を受け、需給引き締め観測が広がりました。しかし、その後は売りが優勢となり、相場はマイナス圏に転落。9月のOPEC産油量が前月比21万バレル増の日量2981万バレルと、2020年4月以来2年5カ月ぶりの大きさになったとする調査結果をロイター通信が公表しました。また、外国為替市場ではドル指数が約20年ぶりの高値圏にあり、ドル建てで取引される原油先物の割高感も嫌気され相場は79.49ドルへ下落しました。

●3日、ロイター通信などは2日、関係筋の話として、OPECプラスが5日に関ヶ会合で、11月の原油生産量を日量100万バレル超減らすことを検討すると報じました。ロイターによると、減産幅は2020年以来約2年ぶりの大きさだとの事。これを受けて、需給の引き締め観測が強まり、原油が買われ相場は83.63ドルへ反発しました。

●4日、ブルームバーグ通信は、OPECプラスが日量最大200万バレル規模の供給削減を検討する観測を伝えたことから、需給引き締めへの警戒感が台頭。原油買いが加速しました。また、外国為替市場では、米長期金利の低下を受けてドルが対ユーロで下落。ドル建てで取引される原油など商品の割安感が生じたことも買いに拍車を掛け相場は86.52ドルへ続伸しました。

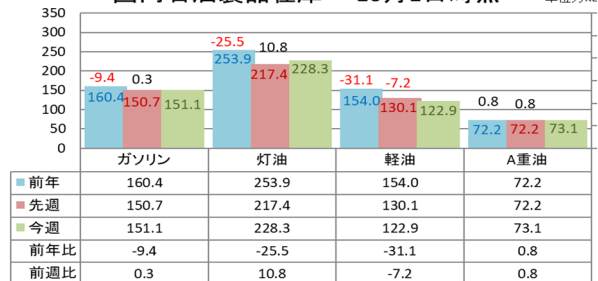
●5日、OPECプラスは5日、ウィーンで閣僚級会合を開催。11月の生産量を日量200万バレル減らすと決定しました。減産幅は新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)が本格化した2020年以来的の大きさ。大規模減産の決定を受け供給懸念が高まり、買いが優勢となり相場は87.76ドルへ続伸しました。

●6日、欧州連合(EU)は同日、ウクライナ侵攻を続けるロシアに対する追加制裁として同国産石油価格に上限を設けることで合意しました。これを受けて、ロシアのナポコ副首相は生産量を減らす可能性を示唆しました。OPECプラスの減産も含め今後の需給引き締め観測が一層強まり、相場は88.45ドルへ続伸しました。

2022/10/7 16:00現在 WTI原油 88.21ドル 為替1ドル 145.92円

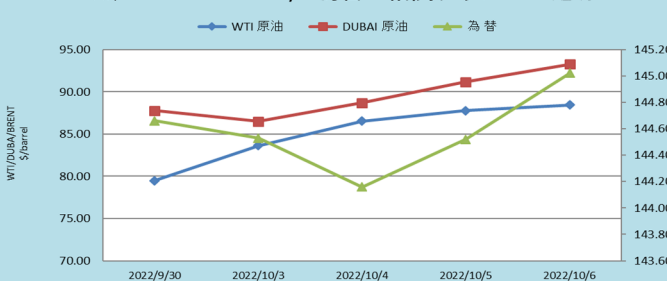
国内石油製品在庫 10月1日時点

単位:万KL



WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ

単位:円



【製品卸価格＜OPECプラス11月の原油生産量を日量200万バレル削減決定で原油高騰＞】

＜今週＞ 今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは、「-2.5円」、補助金は、「-33.8円」、都合「-0.6円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの3日時点の小売価格平均は169.1円となっております。月初は、6日からの値下げ改定が見えていたため、元売月間玉と市況連動玉を持つ業者が販売を強化しましたが、直近の原油高騰により販売にブレーキをかけてきました。

＜10月8日以降＞ 次回の元売り改定は、原油コストは「+5.0円」の改定予測で、激変緩和補助金は「-37.0円」の見込みで、都合「+1.8円」の値上げ改定の予測となっています。OPECプラスが11月の原油生産量を日量200万バレル削減すると決定した事で、今後の需給引き締め懸念が台頭し原油は高騰しています。元売月間玉と市況連動玉を持つ業者は、月次のコストが上昇するため販売価格の見直しを始めています。一方、11/3からの価格改定では、サウジ調整金が、▲3.6円のため大幅な値下げ改定が予想され、月末近くは逆反需が発生しオーダー先送りが見込まれます。そのため販売各社は、月末を迎えるまでに大部分の販売枠を消化しようと販売攻勢を強めてくると思われます。

※原油コスト「5.0円」※激変緩和補助金「-37.0円」
※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】＜洋上風力事業を本格化、グリーンアンモニア製造艦「GAPS」＞

會澤高圧コンクリート株式会社(本社 苫小牧市)は、10MW級の巨大な洋上風力タワーを支えるフルコンクリート製のセミサブ型浮体に、国際コンテナ型のアンモニア製造モジュールを搭載し、洋上で直接グリーンアンモニアを製造して貯蔵する「グリーンアンモニア製造艦」(Green Ammonia Production Ship、開発コード: GAPS)の実証機開発に乗り出しました。電気と水と空気からグリーンアンモニアを低圧省エネルギーで製造する技術を持つ米コロラド州デンバーのStarfire Energy Inc.と、アンモニアを極めて少ないエネルギーで水素に転換する触媒技術を持つ米テキサス州ヒューストンのSyzygy Plasmonics Inc.とそれぞれ提携。洋上風力由来の再生可能エネルギーをグリーン燃料にいったん変えて輸送し、使う直前で燃料電池グレードのグリーン水素を生成してFCV燃料電池自動車に供給する、世界に例のない地域分散型のグリーン水素サプライチェーンモデルを構築するのが狙いです。アンモニア(NH3)は水素と同様、燃やしてもCO2を一切出さず、エネルギー密度はリチウムイオン電池や圧縮・液体水素よりも高いため、石油にとって代わり得る有望なグリーン燃料です。燃料として直接使う以外に水素(H2)への転換も可能なため、すでに確立されている港湾などのインフラや輸送ネットワークをそのまま活用できる、安価で効率的な水素の貯蔵・輸送代替、つまり「水素キャリア」として期待されています。現在計画されている風力発電の大半は、電力会社の系統(グリッド)につなげて使用することを想定していますが、洋上風力で発電した電気をその場で直接、運びやすいアンモニアへと燃料化してタンク貯蔵し、それを海陸輸送したうえで、使う直前に燃料電池クラスの水素に転換して使用する、低コストで安全かつ実現性の高い水素サプライチェーンを構築すべきであると考えます。洋上風力で製造されたアンモニアを水素キャリアとして使う方法を採用すれば、①風力発電の出力変動を気にすることなく、電力をそのまま燃料として常時蓄えられる(24時間海の上で燃料をつくり続けるグリーン洋上油田) ②水素輸送に係るコストをおよそ七分の一に圧縮し、分散的な需要地において低コストで安全かつ安定的な水素サプライチェーンを構築できる ③水素サービスステーション(SS)内に昇圧前の体積が大きい水素を貯蔵する必要がなくなり、水素SSを現行のガソリンスタンド以下に小型化できるうえ、課題であった水素の充填時間をガソリンの給油と同等か、それより短くできる、といったメリットがあります。

[出典]

① <https://kyodonewsprwire.jp/release/202208295647>

© 2022 SHIN-IDEMITSU Co., Ltd. ALL rights reserved.